

2014年度海外会計・監査調査 研究基金資産（岡本ファンド） による海外派遣報告



南洋理工大学の教員・職員とのWelcome Sessionにて

はじめに

第15回の海外会計・監査調査研究基金資産（岡本ファンド）による海外派遣は、2014年9月15日から19日までの5日間、シンガポールにて実施された。この海外派遣は、1993年7月に故・岡本丸夫会員（兵庫会）からの寄附金1億円をもって、海外研修の機会が十分ではない公認会計士にその機会を提供するとともに、現地進出日系企業がどのような環境下で経営を行っているかの理解を深

めること等を趣旨として、日本公認会計士協会に設けられたものである。

本年度は選考を経て公認会計士8名が選ばれ、シンガポールを代表する大学の1つである南洋理工大学（Nanyang Technological University、以下「NTU」という。）にて現地の会計・監査制度、税制、経済情勢、投資環境等を学ぶとともに、税務当局や日系企業、地場企業、地場の中小会計事務所等への学外訪問を行った。

日程と概要報告

■ 6月27日（金）結団式

結団式が行われ、当年度の海外派遣メンバー8名が初めて一堂に会した。各メンバーの自己紹介が行われるとともに、各人の役割分担を決定した。さらに、前年度の派遣メンバー数名から、前年度の研修の様子について説明があった。前年度参加者から実体験に基づく具体的なアドバイスを得たことにより、メンバーの研修に対する意欲が高まるとともに、期待も大きく膨らんだ。

■ 8月1日（金）国内事前研修

出発前の国内事前研修が、公認会計士会館で行われた。シンガポールの実務に詳しい弁護士の関口健一氏、公認会計士の南里健太郎氏の2名による、5時間という長丁場の研修であった。研修内容も、シンガポールの概要、経済状況、税制・会計制度、金融制度、為替、貿易管理制度、日系企業の進出状況、日系企業が直面している問題といった多岐にわたる充実した内容であり、講師の説明も分かりやすく、事前準備に当たり非常に参考になるものであった。

■ 9月14日（日）移動日

出発当日の朝、全員が予定通り羽田空港に集合し、湧き上がる期待を胸にシンガポールへ向けて出発した。

約7時間のフライトの後、シンガポール・チャンギ国際空港に到着した。天候は快晴、空港を降り立った途端に感じた蒸し暑さに、シンガポールに来たことを改めて実感した。空港ロビーには、これから1週間お世話になるNTUのスタッフAnnieさんが迎えにきてくれ、マイクロバスで宿泊先ホテルへ向かった。道中、車窓から見渡すシンガポール特有の団地や、南国を実感させる緑鮮やかな熱帯植物の街路樹を眺めるにつれ、いよいよ始まる異国での研修に心が高ぶった。

■ 9月15日（月）研修初日

研修初日ということで、皆、多少緊張した面持ちで8時45分にホテルロビーに集合し、Annieさんの引率でキャンパスへ向かった。教室に到着後、朝9時に研修が開始された。まずはWelcome Sessionということで、大学スタッフからNTUの概略が説明され、その後、大学講師やスタッフと共に記念撮影を行った。

記念撮影後、いよいよ講義が開始された。初日、第1回目の講義はTiong氏によるシンガポールの投資環境（Overview of Investment Climate in Singapore）であった。講義では、シンガポールの歴史から投資環境、さらには、シンガポール投資におけるリスクまで、網羅的に説明がなされた。1965年にマレーシアから独立した当時は非常に貧しく、資源のない小国であったが、35年間にわたって首相を務めたLee Kuan Yen氏の優れたリーダーシップによって今日のシンガポールが築かれた。

資源のない小国であるゆえに、外資誘致による経済成長戦略を定め、そのための制度を着実に整備し、世界中の企業や富豪から資金が集まってくる世界有数の国にまで発展したことは驚異に値する。

昼食は大学キャンパス内レストランで、NTU職員の方々と共に円卓で中華料理を頂いた。職員の方々はとてもフレンドリーで、様々な話題で盛り上がり、楽しい昼食となった。

午後はシンガポール内国歳入庁（IRAS：Inland Revenue Authority of Singapore）とNTUのメインキャンパスを訪問した。IRASは日本の国税当局とはだいぶ趣を異にし、税金の管理徴収事務を主業務としている。そのためか、重々しい雰囲気は感じられず、納税者相談窓口では、番号札を引いて電光掲示板に自分の番号が出るのを待つ多くの納税者がソファに座っており、風通し良く明るい雰囲気を感じていた。

IRAS内の展示ギャラリーに通され、シンガポールの税体系と税制の歴史について一通りの説明を頂いた後、フロア内を少し見学させて頂いた。

その後、NTUのメインキャンパスを訪問した。国土の狭いシンガポールにもかかわらず、同大学のキャンパスは広大で、巨大な校舎や沢山の学生寮が立ち並ぶ様子は、シンガポールという国がどれだけ教育に力を入れているかを実感できた。

大学側のアレンジにより、NTU日本愛好会（NTU：Japanese Appreciation Club）の学生十余名によるキャンパス・ツアーが実施された。ビル1棟を占拠するような巨大なライブラリーに案内されて、まず、目に飛び込んできたのは、勉強にいそ

しむ沢山の若い学生であった。1人で自習する学生や、数人でホワイトボードを囲みグループワークをする学生など、授業時間外にも意欲的・自主的に勉強に取り組む沢山の学生の熱意を目の当たりにし、振り返って、日本の大学に対する危機感を覚えたことは否めない。

■ 9月16日 (火) 研修2日目

午前の講義はSng氏による「シンガポール経済 (Singapore Economy)」であった。シンガポール経済の歴史と主な特徴、経済政策とその成果、経済面の短期・中長期的な課題といったテーマについて、興味深いトピックスとともに分かりやすく説明がなされた。特に、輸出入が国内物価に大きく影響するシンガポールでは、金利政策よりも為替政策を重視していることが非常に興味深かった。また、労働者人口の40%弱を外国人が占め、国内雇用維持のための規制に苦慮していることや、合計特殊出生率1.29という少子化に直面していること等、繁栄の陰にある課題にも触れられた。

講師による説明の後、団員から活発に質問がなされたが、1つ1つ丁寧に熱意をもって答えてくださった。

午後は、日系企業と地場企業を1社ずつ訪問した。まずは、横浜ゴム株式会社のシンガポール販売子会社を訪問し、会議室にて日本人代表者から詳細な会社説明を頂いた。同社は設立後まだ1年半という新しい会社であったが、それゆえに、会社設立の背景や、立ち上げ時の苦勞、運営面での課題等、顧問先の海外進出を支援する際に直面する課題と重なる部分が多く、各団員から途切れなく質問が続き、非常に白熱したセッションとなった。その後、引き続き、

シンガポール地場企業を訪問した。会議室に通され、シンガポール人の代表者から会社説明を頂き、現地企業特有の視点や経営課題などを知ることができた。

■ 9月17日 (水) 研修3日目

この日は、午前、午後とも学内での座学であり、シンガポール公認会計士であるErnst & Young SingaporeのパートナーChan氏により講義が行われた。午前の講義は「シンガポールの会計・監査基準 (Accounting and Auditing Standards in Singapore)」、午後の講義は、「シンガポールの所得税・法人税と投資インセンティブ (Income Tax, Corporate Tax and Investment Incentives)」であった。我々の専門分野の講義であり、かつ講師が実務家であるため、非常に興味を持って聴講することができた。講師は大変熱心で、予定時間をオーバーするほど白熱した講義が続き、時間の経過が早く感じられた。

なお、この日は講師と昼食を共にし、シンガポール会計士の就職事情やキャリアパス、大手監査法人でのスタッフの仕事ぶりなどを、カジュアルな雰囲気の中で聞くことができた。

■ 9月18日 (木) 研修4日目

午前の講義は、銀行家であるShegar氏による「シンガポールのバンキングとファイナンス及び金融市場の最近の課題 (Banking and Finance in Singapore & Current Issues in Financial Markets)」であった。講師は30年以上にわたり、ロンドン、香港、オーストラリアなどで銀行家として活躍された方であり、非常に紳士的で、かつ、綺麗な英語で話をされ、シンガポールの産業構造・経済環境・財政政策から、米ドルと米

国の金融機関とその特徴に至るまで、我々に随時質問をして理解を確認しながら丁寧に講義は進められた。

午後は、シンガポールの中堅会計事務所であるLo Hock Ling & Co.を訪問した。最初に、所長自らのパワーポイントによる事務所説明がなされた後、派遣団からの質問を受けるとい形で進められた。監査、税務、コンサルティング等、実施する業務自体は日本の会計事務所と同様であることから、どのようにして顧客開拓をしているのか、海外会計事務所との連携はどのようにしているのか、業務報酬の価格競争はどのような状況か等、団員それぞれ自身の直面する課題と重ね合わせる形で活発な質疑応答がなされ、大変白熱した場となった。

■ 9月19日 (金) 研修最終日

いよいよ最終日となり、午前は初日と同じTiong講師による「海外子会社及びジョイントベンチャー管理上の重要なリスク (Key Risks in Management of Foreign Investment Subsidiaries and Joint Ventures)」の講義であった。

講義ではシンガポールでの事業投資、ジョイントベンチャー (JV) を行う際の留意点などが紹介された。まず、JVについての説明がなされた後、輸出、ライセンスビジネス、フランチャイズビジネス、委託製造、子会社運営といった事業形態別のメリット・デメリットについての解説がなされた。

午後は、十数名のシンガポール会計士がNTUキャンパスにお越しください、我々団員とのネットワーキング・セッションを行った。まず、日本側を代表して、西田・秦両団員が、日本の公認会計士制度や活動領

域等に関するプレゼンテーションを行い、その後シンガポール側から活発な質問がなされた。また、質疑応答後はカジュアルなティーブレイクが設けられ、様々な情報交換を行った。

シンガポール会計士からなされた質問の中には、日本の証券取引所の外国企業の上場に対する姿勢や難易度、外国企業の日本進出に対する日本の政府機関による支援体制の有無といった質問もあり、外資に対して透明で開放的なシンガポールで活躍する会計士の目に、日本の体制がどのように映っているのかが若干気になった。他方で、シンガポールに進出する複数の日系企業をクライアントに持つシンガポール会計士もおり、また日本の専門誌に日本企業をターゲットにした広告を打ちたいという話も聞き、日本とのビジネスに意欲的な側面も伺えた。

以上、5日間にわたる全てのプログラムが終了した後、夕方に終了式が行われ、大学スタッフの方から修了証と記念品を頂戴した。全プログラムを修了したという達成感と共に、派遣研修が終わることへの一抹の寂しさを感じた瞬間でもあった。

研修終了後、翌9月20日(土)にはシンガポール観光を行って現地の人々の暮らしや文化に触れた後、同日21時45分にシンガポール・チャンギ国際空港を出発した。翌9月21日(日)午前6時ごろ羽田空港に到着、大きなトラブルもなく研修が無事終了した。

おわりに

今回の研修を通じ、東南アジア経済における最も重要な国の1つであ

るシンガポールについて、実際に現地に滞在して生の情報に触れ、肌で学んだことは、公認会計士としての今後の人生に大きな影響をもたらすものと思う。また、極めて意欲的かつ協力的な8名の派遣団員の間で苦楽を共にしながら過ごした時間は、何にも代えがたい財産であり、今後も互いに協力しながら職業的専門家として高め合っていきたい。

最後に、来年度以降もより多くの公認会計士が本プログラムに参加し、貴重な経験を得られることを切に願うと共に、このような機会を与えてくださった故・岡本丸夫会員、日本公認会計士協会関係者及び本派遣に関わった全ての方々に改めて最大の感謝を申し上げたい。

(東京会 赤塚 孝江)

(京滋会 西田 博昭)

(東京会 宮野 雄太)

海外会計・監査調査研究基金資産による海外派遣

2014年度派遣団員(8名)

団 長 赤塚 孝江(東京会)

副団長 紺野 良一(東京会)

団 員 井上 敦(東京会)

西田 博昭(京滋会)

秦 勝浩(近畿会)

檜田 和毅(東京会)

宮野 雄太(東京会)

望月 崇(東京会)

(五十音順)